

機関番号：10101
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20360283
 研究課題名（和文） 北海道・樺太における建築技術者・建築家・建設業者・建築系職人に関する総合的研究
 研究課題名（英文） The integrated research on architectural engineers, architects, building contractors, and architectural craftsmen in Hokkaido and Karafuto
 研究代表者
 角 幸博 (KADO YUKIHIRO)
 北海道大学・大学院工学研究院・教授
 研究者番号：40001995

研究成果の概要（和文）：本研究は北海道および樺太を対象として、棟札や戦前期の新聞、職員録等を資料として、建築技術者・建築家・建設業者・建築系職人の人名および経歴や関与建築物の関連情報を統合したデータベース作成を目的としたものであり、2326件の情報を集約することができた。その内訳は、営繕技術者873件、民間技術者・建築家173件、建設業1014件、その他266件（建築関連団体役員を含む）である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is construction of the data base that integrates of name of architectural engineers, architects, building contractors, and architectural workmen in Hokkaido and Karafuto from the newspapers, the lists of government officials before World War II or the munafuda (wooden tag for framework raising ceremony), their careers and related information on the participation buildings. The data of 2326 people can be collected, and the details are 873 engineers in government, 173 architects or nonofficial engineers, 1014 contractors and others 266 including the directors of the architectural society.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2009年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2010年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
年度			
総計	10,600,000	3,180,000	13,780,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：建築史、建築技術者、建築家、建築職人、建設業者、北海道、樺太

1. 研究開始当初の背景

近年各地で登録有形文化財の登録が精力的に推進されているが、登録建物の基本情報の中には、設計者や施工者名が不明のものが数多く見られ、また関与者名が挙っていても、彼らの事績や経歴などは不詳のことが多い。多くの蓄積を重ねてきた日本近代史研究において、今後展開しなければならない研究方

向の一つとして、地域や地方を対象とした、より詳細な地域建築史学が必要と考えられる。また、人物研究は、膨大な時間を要する研究の一つであり、研究代表者らがこれまで蓄積してきた(1)営繕技師および営繕組織に関する調査研究、(2)民間建築家・技術者に関する調査研究、(3)建設業者・建築職人に関する調査研究、(4)樺太における建築組織・技術

者・建築家・建設業者・建築職人に関する調査研究などの結果を基礎資料としつつ、できるかぎり詳細な人名データを作成するために、これまでほとんど未着手であった棟札による建築人名調査や欠落していた戦前期新聞の建築関連事項の収集などの範囲まで調査を広げる必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究課題では、これまでの研究代表者らの調査研究成果を基礎資料とし、さらに人物発掘の追加作業、棟札による建築人名調査、戦前期新聞の建築関連事項の収集を通じて、北海道および樺太を対象として、近代建築文化を創成してきた建築技術者・建築家・建設業者・建築系職人の出来る限りの情報を収集・調査し、北海道および樺太の近代建築の展開過程を人物面から明らかにし、可能な限り詳細な「北海道・樺太人名データベース」を作成することを目的とした。

3. 研究の方法

これまで断片的に集積されてきた人物関連情報の一体化と、新たな人物発掘および経歴調査が本研究計画の主要な部分であり、大きく(1)営繕技術者、(2)民間建築家・技術者、(3)建設業者・建築職人、(4)樺太における建築組織・技術者・建築家・建設業者・建築職人の4本柱を調査研究遂行の要とした。

(1) 営繕技術者に関しては、北海道樺太人名録(昭和17、19年)、北海道自治関係職員録(昭和7、9年)、樺太年鑑(昭和14年)などの職員録から技師・技手などを収集。

(2) 民間建築家・技術者に関しては、スイス人建築家マックス・ヒンデルの樺太における活動および離日後のドイツRegenでの活動、建築家田上義也の戦後の活動のほか、1950年代から60年代にかけて活動した建築家の抽出と事績活動についての調査

(3) 建設業者・建築職人に関しては、北海道内の博物館・郷土資料館所蔵や歴史的建物の小屋裏に所在の棟札調査および札幌区商工人名録(明治42年)、北海道人名辞書(大正12年)、東北海道の人物(大正15年)、北海道市町村要覧(昭和2年)、釧路商工案内(昭和4年)、札幌電話番号簿(昭和7、10年)、北海道樺太人名録(昭和17、19年)などの文献および戦前期発行の地方新聞(北海タイムス、十勝毎日新聞、小樽新聞、札幌毎日新聞、函館新聞など)の建築関連記事、新聞広告からの人名・事績調査

(4) 樺太に関しては、上記(1)～(3)と同様の方法で、樺太庁、樺太鉄道事務所の技術者調査、岩手県立盛岡工業学校などの同窓会名簿、樺太日日新聞などから民間技術者、建設業者の人名収集をおこなう。

4. 研究成果

(1) 既往研究文献

建築技術者・建設業者等の既往研究文献として、群として扱ったものと、個別の人物研究があるが、群として扱った研究文献およびとりあげた人数は以下の通りである。

大篠雅昭『函館市営繕組織の史的研究』(昭和57年度北海道大学卒業論文) 14人、池城正樹『開拓使函館支庁の営繕組織について』(昭和61年度北海道大学卒業論文) 45人、小坂映王『昭和初期における小樽市の営繕事業について』(平成元年度北海道大学卒業論文) 8人、細谷理喜『伊藤亀太郎(1963～1944) -その人脈を主として-』(平成5年度卒業論文) 19人、山下昌彦『伊藤組にみられる大正末期～昭和初期道内建設業者の活動』(平成6年度卒業論文) 31人、吉本真希子『越後間瀬大工』(平成6年度修士論文) 63人、安藤理美『大正末期・昭和初期における札幌の官庁営繕組織と営繕技術者について』(平成8年度卒業論文) 17人、江下友三枝『北海道帝国大学創立期の医学部及び附属医院の建築について』(平成8年度修士論文) 15人、山後正憲・若尾憲『後期札幌農学校キャンパスの建築に関する史的研究』(平成9年度卒業論文) 13人、山崎友恵『北海道における棟札に関する研究』(平成21年度卒業論文) 32人、『日本建築家協会会員名簿 1968年版』(社)日本建築家協会、1968年) 13人、廣田基彦『開拓使・道庁営繕80年の覚書き』(㈱北海道建築設計監理、1997年) 163人。

個別研究は、研究代表者が主宰する北海道大学建築史意匠学研究室の卒業論文・修士論文13編で、15人の経歴と建築活動を明らかにしている。

(2) 営繕関連技術者

上記研究結果及び職員録などの文献調査から、営繕関連技術者として、873名を収集した。

さらに相浦源六(1879-?)、安達喜幸(1827-1884)、家田於菟之助(1867-?)、石井佐賀恵(?-1975)、稲葉治四郎(1888-?)、遠藤慶蔵(1867-1942)、貝塚良雄(1900-1974)、倉辻吉次郎(1896-?)、田子秀二郎(1903-1994)、田中豊太郎(1877-?)、中條精一郎(1868-1936)、新山平四郎(1869-?)、萩原惇正(1892-?)、福岡五一(1889-1971)、三戸義夫(1883-1938)、湯川甲三(1853-1915)、成田幸一郎(1888-?)ほかの経歴・活動に関してとりまとめた。以下事例として数名をとりあげる。

1) 相浦源六は、北海道庁営繕技師。佐賀出身。1900年東京私立工手学校造家別科修業、1901年北海道庁上川支庁第2課土木係勤務、事業手。1902年北海道庁土木部、翌年室蘭支庁技術員、4年鉄道作業局岩見沢保線事務所

勤務を経て、1908～1921年土木技手室蘭支庁勤務。1927年土木部建築課、30年営繕技師土木部建築係を経て、1935年依願免官。免官後に余市町役場(1936)、由仁町庁舎(1937)、1931～35年まで道庁では福岡五一、三戸義夫、相浦の3名の技師体制が続いた。

2) 安達喜幸は、大工棟梁出身の開拓使工業局主席建築家。江戸芝田町3丁目(現東京都芝区田町)で生まれる。生家は代々大工棟梁の安槌家。初め久治郎、のち築造、または久米造と称した。出身地田町付近の出身者に養子久次郎、小泉築治郎、女婿塚田政五郎など親族のほか、有渡満豊、三里金次郎、市村国松、岩浅亀吉など開拓使営繕関係技術職員が十指に及ぶ。1871年工部省会計局営繕方拝命、11月開拓使御用掛、1874年工業局営繕課勤務、1883年農商務省二等技手を拝命したが、同年根室出張中病となり、1884年東京で没した。墓碑は札幌にある。1872～73年にかけては、開拓使が本庁を初め一連の洋風建築にとりこんでいたところで、1874年岩瀬隆弘主席建築技師が東京に召還されてからは、安達が実質的な主席技師として活躍した。

3) 石井佐賀恵は、1921年東京高等工業学校卒業後、1929年まで逓信省経理局営繕課技手。同年、樺太庁技師として内務部土木課建築係に勤務、1936年から新設された営繕課課長。1945年引き揚げ後の職歴は未詳。豊原郵便局、豊原医院、中央試験所本館など鉄筋コンクリート造大規模建築などの建築ラッシュであった昭和期の樺太庁建築組織のトップとして活躍した。

4) 稲葉治四郎は、北海道士別町技手。富山県中新川郡早月加積村生まれ。1905年妹背牛駅鉄道貨物取扱店勤務。1908～1910年歩兵第27聯隊入営。秩父別土功組合灌漑溝監督助手、北樺太運輸建築合資会社、陸軍測量部雇を経て、1924年士別町灌漑溝助手、翌25年書記兼技手となるが、建築教育を受けた経緯は不明。代表作の中士別尋常高等小学校(1936)は、アーチやオーダーなど古典的要素を多用した外観意匠で、当時の地方学校の中で異色の存在であった。

5) 遠藤慶蔵は、新潟県西蒲原郡浦浜濱村生まれ。遠藤孫左衛門の長男で、幼少時、父とともに会津若松に転住、同地小学校卒業後、22年間大工修行を積む。1876年函館区嘱託、1907年札幌区嘱託。1919年札幌区技師、22年土木課長心得、1932年以降の職員録には札幌市建築係技師とある。関与した建築に、函館区立弥生小学校校舎(嘱託、1903)、同住吉小学校校舎(世話役嘱託、1905)、札幌病院(監督方嘱託、1907)、札幌今井百貨店(1916)のほか、大正初期から昭和初期の一連の札幌区(市)木造小学校がある。札幌市立病院本館(1923)、同病院増築(1934)、札幌市公会堂(1927)は彼の力量を示す作品である。RC造の

札幌市新庁舎は、遠藤案を大蔵省営繕管財局建築課で修正したもので、新庁舎完成の1937年健康上の理由で退職した。

(3) 民間建築家・技術者のうち、①建築家マックス・ヒンデルの離日後の活動として、ドイツRegenでの実地調査の結果、以下を明らかにした。

1940年離日後、シベリア経由でベルリンに渡り、1941～45年ベルリンに滞在後、ドレスデングループをベルリンからチェコ国境近くのドイツ経由でチューリッヒに連れて行く途中で空襲に遭い、2番目の妻Leni Hinderを同年7月9日Zwieselの病院で失った。Leniは、1906年12月6日生まれで、1931年11月12日ウィーンのCharlottenburgでHinderと結婚している。妻を失ったHinderは、1945年からRegenに住みつき、赤十字の最も活発なメンバーの一人として活動し、またRegenのSclaraffia(1859年にプラハで設立されたドイツ語圏の音楽・芸術・文化グループ)の設立に奔走した。1950～52年レーゲン職業学校(1948年設立)の校長を努め、1960年にSiegfried Gaisbauer(1932年ミュンヘン生まれで、1959年28歳でRegenに移住。本調査で聞き取りが出来た)と設計事務所(Ing. Büro. S. GASDAUER)を設立した。Hinderが死去するまでの3年間に、20～30のプロジェクトを手掛けたが、いずれも実現しなかったという。この間、1959年12月28日にMargareta(1908年7月5日Regen郡 Sölden生まれ)と結婚している。Hinderは、1963年1月27日76歳で死去するが、重い喉頭がんであった。Margareta夫人は2003年9月23日死去し、二人はRegenのAlter Friedhof(旧墓地)に眠る。墓碑には「M. R. HINDER 20. 1. 1887 27. 1. 1963」「GRETE HINDER 5. 7. 1908 23. 9. 2003」とある。

②建築家田上義也の戦後活動に関しては、事務所の規模を拡大した1960年代から1970年代を中心に多産な活動を展開した。中でも、ユースホステル運動の理念と田上の設計姿勢を体現した14件のユースホステルと、北海道銀行初代頭取島本融との議論を反映した北海道銀行19支店と北海道銀行福利厚生15施設は、田上が傾注した建築であった。それらを中心に、主要な作品リストと30件800枚の図面リストをとりまとめた。また田上の活動は設計に留まらず、旧日本建築家協会の初代北海道支部長(972-1973)、北海道建築設計事務所協会の初代会長(1976-1980)を務めるなど、建築設計業の必要性を社会に啓発する役割を担い、北海道の建築界で中心的な役割を果たしたことを示した。

③さらに岩見田良夫(1910-2005)、岡田鴻記(1907-1981)、石井喜助(1893-1977)、白澤長吉(1877-1954)、亀井勝次郎(1910-

1981)、栄米治(1904-1976)、指田近之助(1897-1969)、関根要太郎(1889-1959)、橋本理助(1908-1986)、三浦才三(1898-1942)、吉田三郎平(1908-1975)ほかの経歴・活動について収集した。以下事例として数名について紹介する。

1) 岩見田良夫は、宮城県仙台市生まれ。1932年札幌工業学校卒業後、小樽市建築課に所属。その後、北ノ王鉱山などの鉱山開発事業に従事し、北海道住宅㈱、昭和通商㈱を経て、1951年に設計事務所設立し、遠軽周辺や日高支庁での設計が多くみられる。

2) 岡田鴻記は、北海道富良野村生まれ。1928年神戸高等工業学校卒業後、北海道帝国大学営繕課を経て、1944年から50年まで北海道赤平村を本拠に活動。1950年に旭川市で設計事務所設立後、札幌を本拠に事務所の規模を拡大して多産な活動を行った。

3) 白澤長吉は、岩手県上閉伊郡大槌町出身。履歴に1989～92年大森漢学塾夜間通学、1992～99年寺社および洋式建築実科修行、1899～1907年和洋建築設計受託とあるが詳細は不明。1907年30歳で北海道庁技術員、1910年技手、1915年北海道庁技手6級俵道路課勤務、1919年病気のため依願免官。1921年白澤建築工務所を開設し建築活動を行う。ロシア正教の洗礼名マルコ。1920～21年帯広町役場設計監督、22年小樽新聞社札幌支店設計施工、24年北海道庁札幌測候所新築に関与。1923年工務所経営の傍ら、静岡県に本社をおく帝国鉄筋コンクリート(株)札幌出張所主任に就任。1928～29年札幌市建築係技術員としてRC造の札幌市公益質屋の設計に携わる。1932～34年北海道拓殖銀行嘱託を務め、1934～44年札幌市役所技術員(首席)として幌北小学校、幌南小学校など7校の学校建築に関与。主な作品として北海道拓殖銀行滝川支店(1932、RCB造2階)が挙げられる。

4) 亀井勝次郎は、父亀井喜一郎(函館貯蓄銀行頭取)、母宮子の間に5人兄弟の次男として函館元町で生まれる。三つ年上の兄勝一郎は文芸評論家。1921年に生家が大火で被災し、同年関根要太郎の設計で新居(渡邊邸として現存)建設。1928年北海道庁立函館中学校卒業後、早稲田大学理工学部建築学科に進学。今井兼次に影響を受け、また卒業後も親交が続く。1934年同校卒業後、函館大火復興事業のため函館市土木課建築係技術員として勤務。同年設計の五島軒は竹下茂(東京工手学校1924年卒業)との共同であるが代表作の一つ。1936年函館市役所退職後、満州鞍山市昭和製鋼所技師、呉海軍施設部工事事務所所長(海軍省技師)、上砂川炭鉱工事事務所所長を経て、1948年北海道拓殖銀行管財課勤務。1974年の退職まで、拓銀の支店、社宅、関連

施設の設計を担当、支店だけで138店舗を数えた。

5) 栄米治は、北海道広尾村生まれ。1928年に東京美術学校卒業後、樺太庁、日本放送電㈱、北海道電力㈱を経て、1960年設計事務所を設立し、北海道電力㈱施設の設計を中心に、建築美の表現を主眼として活動した。

6) 橋本理助は、山形県生まれ。東京市に勤務する傍ら1929年に日本大学を卒業し、北海道庁土木部建築課、戦災復興院を経て、1954年に設計事務所設立。戦前の北海道で鉄筋コンクリート構造設計を専門とする建築技術者として知られていたが、戦後は意匠設計も行った。

7) 三浦才三は、岩手県花巻市出身。盛岡工業学校建築科卒業後、1921年頃札幌鉄道局保線事務所建築課に勤務。その後請負業松川豊吉の長女ミドリと結婚、松川三浦建築工務所を設立した。昭和初めから三浦建築事務所として、札幌藤高等女学校復旧工事(1932)、札幌光星学園校舎(1934)、小樽富岡教会(1929)や岩見沢、稚内などのカトリック教会施設を中心に活動した。またプロテスタント系のめばえ幼稚園(1937)の設計施工も担当。1929、30年ころから札幌禁酒会メンバーとしても活躍した。設計事務所を1938年ころ廃止。1939年北海道興農社(雪印乳業の前身)の嘱託として務め、市会議員も務めた。墓碑は札幌円山墓地にある。

8) 吉田三郎平は、札幌生まれ。1934年に早稲田大学卒業後、北海道庁、北海道土木工業組合を経て、1950年に土建工房を設立し、1961年に吉田建築設計事務所へ改組する。公共建築を中心としながら、件数こそ少ないが、寺社仏閣の和風意匠に力を注いだ。

(4) 棟札による建設業者・建築職人の収集は、北海道内の博物館・郷土資料館所蔵の棟札のアンケート・実地調査をし、35施設114枚の所蔵を確認し、うち79枚から人物名304名を収集した。また研究代表者所蔵および小屋裏調査などで確認できた棟札15枚から55名の名前が確認され、合計359名の人名を収集した。

(5) 戦前期の北海道および樺太の主要新聞にみられる建設関連技術者

関連技術者名・企業名の収集対象新聞として、①「北海道毎日新聞」(検索期間:1887.10～1901.12、以下同)、②「函館新聞」(1887.1～1897)と「函館毎日新聞」(1898.5～1914.12)、③「北海タイムス」(1901.9～1942.12)、④「小樽新聞」(1895.5～1935.12)、⑤「十勝新聞」(1933.7～1938.6)と「十勝毎日新聞」(1920.4～1939.8)、および「樺太日日新聞」(1910.5～1942.1)の6紙を取り上げ、建物の建設関連記事を検索して請負業者

や設計者、工事監督者および各種職人等の関連技術者・企業名の見られる記事を抽出し、それぞれ、①59件、②123件、③257件、④330件、⑤81件、⑥88件の記事データベースを作成した。

さらに、「北海タイムス」を対象に、各年の元旦広告より建設業関係分として、個人・企業広告⑦1,318件、組合等団体広告⑧104件を抽出、また同紙1935～1942年について建設業関連業者名がみられる元旦以外の各種広告⑨24件および建設業関連組合記事⑩29件を収集した。

上記①～⑩の収集記事・広告等をもとに、個別の氏名・企業名から再整理して、それぞれ、①54件、②96件、③236件、④292件、⑤72件、⑥71件、⑦514件、⑧149件、⑨72件、⑩63件の建設関連技術者・企業名が抽出された。これらの各データを集合し再度照合整理の結果、最終的に、建設請負業者関係として1,168件、建築設計および工事監督者として93件、その他職人82件の人名・企業名を見出すことができた。

(6) 北海道・樺太の建築関連人名データベースのとりまとめ

(1)～(5)までの調査結果を結合してデータベースとしてまとめた。項目としては、氏名、よみ、生没年、出身地、住所、経歴、設計・請負建物名、関係者、公職歴、受賞歴、資料名としてまとめ、2326名のデータとしてまとめることができた。人名のよみは、人名辞書等の文献に準拠したが、文献等にあらわれない人名については標準的なよみとしている。

データベースの内訳は、営繕関連技術者873件、民間技術者・建築家173件、建設業者1014件である。建設業者の内訳として、請負業619件、棟梁(脇棟梁・匠含む)98件、大工91件、左官18件、石工10件、鳶職26件などである。

請負業者として、阿部久四郎(1849-1910)、荒井初一(1873-1928)、池田栄七(1812-1878)、池田登良二(1854-1940)、伊藤亀太郎(1863-1944)、石塚熊蔵(1896-1968)、遠藤米七(1875-1934)、大岡助右衛門(1836-1902)、大星三松(讚平、1874-1949)、大星鶴松(院是、1871-1941)、沖津熊次郎(1880-1947)、加藤忠五郎(1856-1930)、木田保造(1885-1940)、篠原要次郎(1864-1940)、篠田宗吉(4代)(1827-1903)、庄司藤吉(1886-1960)、新開新太郎(1870-1945)、瀬崎初三郎(1874-1958)、田中銀次郎(1868-1937)、田中紋蔵(1835-1898)、田中藤蔵(1871-1927)、本名音吉(1880-1934)、吉井繁太郎(1904-?)などについて経歴や活動をまとめた。以下事例として数名を紹介する。

1) 阿部久四郎は、新潟県西蒲原郡岩室村

間瀬(三嶋郡間瀬村)出身。父喜平、母クマの長男。1871、2年ころ函館税関(運上所)工事で大工として来函し、同年田中善蔵配下に入る。1879年篠原嘉左衛門に誘われて札幌で畠山六兵衛の配下となる。1887年畠山組代人。88年釧路硫黄山鉄道工事を初めて請負う。大倉組下請けで札幌農学校(1899着工)、剣淵、士別屯田兵屋(1898着工)、月寒歩兵連隊(1899着工)、旭川第七師団工事(同)、苫小牧王子製紙工場1908着工)などに従事。

2) 石塚熊蔵は、札幌の請負業者2代目石塚惣吉。札幌生まれ。初代石塚惣吉(1875-1936)とトサの一子。北海高校卒業後、石塚組に勤務。大工修行は受けなかったが、経営者、小住宅設計者としての役割を担った。大正末～昭和初期に親方惣吉から組長熊蔵に実権が移り、1936年初代惣吉の死去により2代目惣吉を襲名。石塚組は札幌区立病院(1923)工事の成功で札幌の代表的請負業者となり、北海道帝国大学医学部工事などに参加した。ほかに医学部教授有馬邸(1928、北大営繕課太田技手設計)、内村邸(1932、同)など施工。1946年石塚組を引き継ぐかたちで石塚良蔵が石塚建設株式会社を創立、熊蔵は1947年新潟県岩室村間瀬に引き揚げ、間瀬村長(1959-63)を務めた。

3) 遠藤米七は樺太の有力建設業者。新潟県西蒲原郡浦浜村大字五ヶ浜生まれ。遠藤家は代々土木建築業。親戚の北海道網走の遠藤熊吉のもとで、常呂屯田工事、旭川第七師団建築工事に従事後、1905年樺太にわたる。伊藤組の樺太守備隊関連工事で下請けで頭角を現し、同組の資金融資を背景に樺太最大の建設業者として発展した。1910年ころから製材工場、煉瓦工場などの多角経営や、豊原運輸株式会社、亜庭汽船会社、樺太運輸株式会社、樺太炭鉱株式会社などの社長を兼職し、豊原商工会議所会頭や樺太請負業者組合長などの公職をつとめる実業家として知られた。

4) 加藤忠五郎は、大工の名門和泉屋13代目として新潟県三島郡稲荷町で誕生。父忠左衛門、母久子。父は早世し、継父虎吉に養われる。1876年上京し文明開化にふれる。1881年両親と小樽に渡る。小樽は大火後の建設工事が活発な時で、加藤親子の名前は広く知られた。忠五郎と妻ミヨ(1860生まれ)の間に3人の子息がいたが、長男虎五郎(1882生まれ)は1888年他界、次男忠三(1884-1964)は病弱のため小間物店「大虎和泉屋商店」を営み、建築業は三男信六(1887-1955)が助けた。明治から大正期小樽の主要建築の多くを請負い、旧三井銀行支店(1905)、北海道拓殖銀行支店(1906)、旧百十三銀行支店(1908)、北海道銀行本店(1912)、今井呉服店支店(1923)、小樽区公会堂(1911)のほか、札幌今井呉服店本店(1916)、札幌区役所(1909)、北海道拓殖銀行豊原支店(1930)などがある。

5) 木田保造は、千葉県君津郡大貫町小久保で、宿屋・網元業の旧家の長男として誕生。父は富治郎、母くに。2歳で父と死別、1910年横浜の大工徒弟として修行、かたわら大谷嘉兵衛塾(夜学)に通う。1904年上京し私立工手学校(夜間)に入学、1906年大蔵省臨時建築部雇となり、翌月工手学校卒業。1910年大蔵省を退職し、この頃白木屋の改築工事を手がけていた伊藤平左衛門の知遇を得る。1911年赤坂溜池に土木建築請負業を開業。翌年結婚し、1913年わが国初のRC造(小屋組は鉄骨造)寺院・函館東本願寺別院工事(1915)のため夫婦で函館に渡る。この工事が縁で門徒総代の豪商渡部熊四郎の知遇を得、工事中にRC造の大正堂書店(1914)、金森倉庫(1916)を設計施工した。木田を有名にしたのは、東京銀座の松屋百貨店(1925)であるが、北海道では木田組が一時独占に近い形でRC造建築を施工した。北海道拓殖銀行函館支店(1922)、函館商業会議所(同)、函館天主公会(同)、今井百貨店本店(1925)・旭川支店(1927)・室蘭支店(1936)、日露漁業函館支社(1928)、北海製罐倉庫工場(1929)、小樽大国屋呉服店(1933)、札幌グランドホテル(1933)ほか多数ある。

6) 田中銀次郎は、島根県松江市寺町で田中佐兵衛とひでの6男として誕生。伊藤組支配人として、伊藤亀太郎長男豊治の教育係として、主従一体となって伊藤組の基礎を築く。1902年伊藤組支配人のまま田中組を旭川に創立。1923年、養女辰と豊治の結婚を機に、伊藤組を辞し、1年以上の欧米旅行をして1924年帰朝。1937年、田中組を満州に進展させる計画であったが満州で他界。

7) 本名音吉は、京都市相楽郡祝園村出身。1906年帯広に渡り、翌年本名宗三郎の婿養子となる。1909年米穀、雑貨、精米業で独立。1913年製材、木材販売業および建築請負業を開始した。帯広聖公会信者で、大正半ばころから同教会委員。主な請負に、日本製糸会社帯広製線工場(1917)、同倶知安工場(同)、同足寄工場(同)、北海道製糖会社工場建築物(1919、20)、帯広中学校(1923)、双葉幼稚園(1922)など。

8) 吉井繁太郎は、新潟県三島郡片貝村出身。生家は代々「吉井越後源重行」を名乗る堂宮大工で、祖父は京都東本願寺修復に招聘された伝八(6代)。父繁治は伝八の6男で、繁太郎は長男として生まれた。1913年に旭川妙法寺工事のために父らと渡道し、1919年旭川町立中央尋常高等小学校卒業後、父の手がける札幌大覚寺山門工事に大工見習いとして参加。1922、3年頃から本格的に大工として仕事を始め、1964年61歳の廃業まで寺社を中心に全道に足跡を残す。代表作として、札幌諏訪神社(1934)、小樽宝泉寺(1937)、札幌大島家住宅(現札幌カトリック司教座教会司教館、1937)、札幌北大寺(1945)などがある

以上のように、データベースを基に、北海道・樺太の建築界の建築人名に関わるできる限りの情報を集積することができ、また建築活動に携わった人々の全体像を不十分ながらまとめることができたことは、本研究の大きな成果といえる。本研究が広く日本近代建築生産史や建築技術史研究の一端を担うことを確信するとともに、将来的に北海道・樺太建築人名事典として結実する際の基礎資料として有効に活用されるものと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

- ①山崎友恵、角幸博、小澤丈夫、石本正明、北海道における棟札に関する研究、日本建築学会北海道支部研究報告集、査読無、No. 83、2010、557-560
- ②小暮竜太、角幸博、小澤丈夫、石本正明、戦後北海道における1930年代生まれの建築技術者について、日本建築学会北海道支部研究報告集、査読無、No. 83、2010、553-556
- ③石川洋介、角幸博、小澤丈夫、石本正明、請負人村上太作(初代・二代目)について、日本建築学会北海道支部研究報告集、査読無、No. 82、2009、425-428
- ④武藤雄介、角幸博、小澤丈夫、石本正明、札幌市における近代寺院本堂に関する調査結果について、日本建築学会北海道支部研究報告集、査読無、No. 82、2009、539-542
- ⑤篠原航太、角幸博、小澤丈夫、石本正明、札幌市黒田家住宅(大正15年)について、日本建築学会北海道支部研究報告集、査読無、No. 82、2009、409-412
- ⑥外川麻衣子、角幸博、小澤丈夫、石本正明、池上重康、札幌ルター学園めばえ幼稚園園舎(昭和12年)について、日本建築学会北海道支部研究報告集、査読無、No. 81、2008、345-348

6. 研究組織

(1) 研究代表者

角 幸博 (KADO YUKIHIRO)

北海道大学・大学院工学研究院・教授
研究者番号：40001995

(2) 研究分担者

石本 正明 (ISHIMOTO MASA AKI)

北海道大学・大学院工学研究院・助教
研究者番号：60001989